

命名した手法：風憶景（ふうおうけい）

題名：記憶の梯子

木にかけられたハシゴは、かつて誰かがそこに登り、何かを感じたり、考えたりした痕跡のように見える。それは自然の風景の中に人工物が加わることで、人の営みや記憶を感じさせるからである。例えば、古い橋、朽ちかけたベンチ、木にかけられた梯子など、自然と人工物が共存することで生まれる物語性を含んだ風景を指す言葉を「風憶景」と名付ける。そこには、少年の冒険心や老人の思い出など、見る人それぞれの物語が投影されるのではないだろうか。

風憶景

～記憶の梯子